



## 岩手大学工学部 ものづくり研究棟

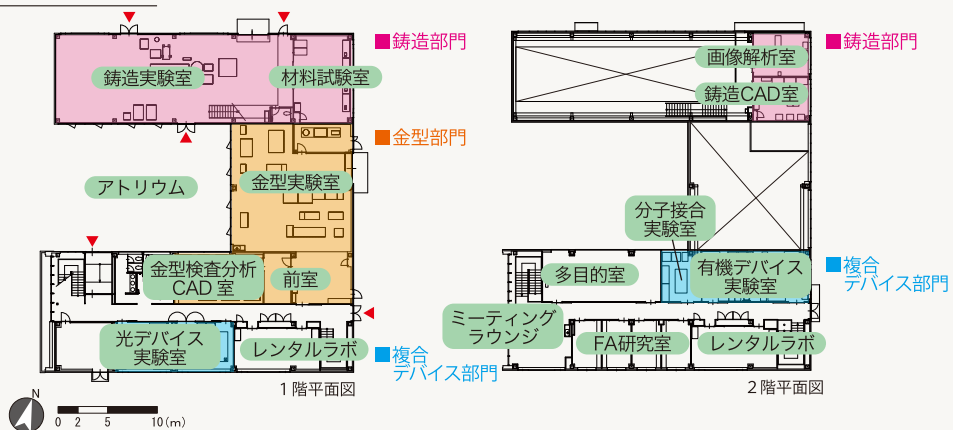
施工地／岩手県盛岡市上田四丁目3番5号  
 竣工年月／平成25年12月  
 敷地面積／93,091.42㎡  
 延床面積／1,227.65㎡  
 構造／鉄骨造2階建

## 岩手の技術の世界へ

岩手県中央部の花巻市・北上市・奥州市は、機械・電気機器を中心とした金型・鋳造・複合デバイス(電子部品)などの各メーカーの企業が集積する「ものづくり工業地域」として発展してきました。近年では、ものづくりにおけるグローバル化が進み、人材の育成や異業種間連携など地域産業の競争力強化が求められております。

国立大学法人岩手大学工学部ものづくり研究棟は、金型・鋳造・複合デバイス技術の3つの分野に特化し、最大100キロまでの溶解可能な鋳造システムを導入するなど、大学の研究施設としては国内でも有数の設備を備え、実践的な研究による次世代開発拠点として、地域のものづくりを支える技術・開発・研究・教育を構築する施設として整備されました。金型や鋳造分野での産学連携による研究開発拠点は、全国でも先進的な取り組みとして注目され、地域での技術革新の創出に期待されております。

平面図



## 融合の具現化

金型・鋳造・複合デバイスと3つの研究分野からなる本施設は、3分野それぞれの専用部分が、1つのアトリウム(共有空間)を取り囲むコの字型の配置とし、3色の外壁サイディングをランダムに配置しながら膜構造の屋根で覆い、施設の一体感とそれぞれの技術の融合化を強く印象付ける施設計画としました。中央アトリウムは学生や研究者、民間企業者の交流が図られるよう明るく開放的な屋外空間とし、開口部をアトリウム面に設け視線的な交わりを生む活力ある施設を目指しました。



鋳造実験室



鋳造CAD室



金型実験室



金型検査分析CAD室

## 産学連携の推進

研究棟内部は3つの研究部門とレンタルラボや多目的室などの諸室から構成され、施設内部は各室の特性に配慮し計画をしました。振動が発生するプレス機のある金型実験室は機械回りを縁切り床として振動を防ぎ、精密な分析を要する金型検査分析CAD室は外部環境からの影響が少ないよう前室を設け適切な研究環境を保っております。また2階に設けた多目的室は約30名程度までの会議や研究成果の発表会などに利用可能なスペースを確保し、民間企業向けの貸し出し研究室としてレンタルラボを2室設置しました。本施設は研究者や企業人が集う、イノベーション創出の場としてその役割を担います。



多目的室



ミーティングラウンジ



光デバイス実験室